

クサナギオゴケ	<i>Vincetoxicum katoii</i> (Ohwi) Kitag.	絶滅危惧 I 類
(環境省:絶滅危惧 II 類)		ガガイモ科
選定理由	既知のすべての生育地で生育条件が著しく悪化しており、個体数が危機的水準まで減少している。	写真(奥田浩之) 
形態の特徴	多年草。茎は直立し長さ30-100cm、先はややつる状に伸びる。葉は対生、卵状披針形で先は鋭く尖る。上部の2-3対の葉は小さく、その腋に数cmの総花柄のあるまばらに分枝した大きい円錐花序をつくる。花冠は紅紫色で、緑白色のものはシロバナクサナギオゴケ f. albescens (H.Hara) Kitag.という。	
生態的特徴	丘陵地から低山地の落葉広葉樹林や林縁に見られる。花期は5-6月。	分布図 
分布状況	日本固有種で、本州(千葉県以西～近畿地方)、四国に分布する。岐阜県においては県南中部の南に見られる。	
減少要因	本種の生育環境である丘陵地や低山地は、人間の生産活動の活発な場所でもあり、改変により生育地が消失している。また生育地の管理放棄による植生遷移の進行が減少を加速させている。	
保全対策	丘陵地や低山地は開発の影響を受けやすいため、生育地の開発規制を行うとともに、草刈りや適度な除伐による草地環境、林床の明るい樹林環境の保全・管理を継続していく必要がある。	
特記事項		
参考文献	「日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類」(佐竹義輔ほか(編), 1981年)	

文責:奥田浩之